



令和4年度

学校だより

3月号

～ひとがすき まちがすき いわさきの子～

横浜市立岩崎小学校

電話 331-5123

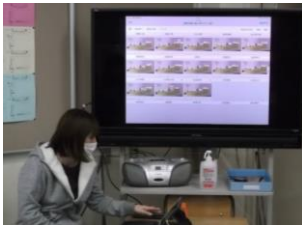
FAX 331-5343

情報端末を効果的に使いこなす力

校長 小林 雅弘

早いもので今年度の学校だよりも今回が最終号となりました。この一年間、保護者や地域の皆様には本校の教育活動にたくさんのご理解、ご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

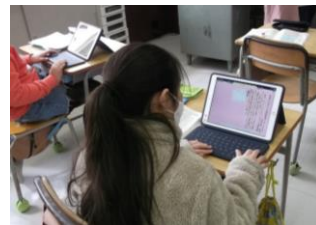
国の「GIGAスクール構想」*によって、子どもたち一人ひとりが情報端末(タブレット)を手にしてまもなく2年が経とうとしています。本校でも昨年度は、「まずは使ってみよう」という『慣れ』の段階でしたが、子どもたちの吸収力はすさまじく、今年度は「いかに使うか」という『活用』の段階へシフトしています。以下は最近の本校の授業風景です。



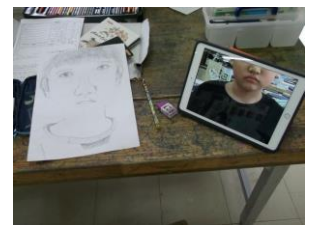
社会「災害に強い町についてQ&Aで考えを共有しよう」



総合「ソフトを使ってプログラミングに挑戦したよ」



国語「タブレットなら何度でも書き直せるから便利だな」



図工「友達の似顔絵も写真に撮ればよく分かるね」

私が新米教師だった頃は、まさか子どもたち一人ひとりが自分の情報端末を文房具のように扱って、学習を進めるような時代が来るとは夢にも思っていませんでした。しかし、これからの高度デジタル化社会を生きていく今の子どもたちにとっては、ICTを使いこなしていく力はもはや必須であると言えます。デジタル教科書への移行も含め、一人一台端末はこれからの学びの在り方をきつと変えていくことでしょう。

ここで注意しなければならないのは、「ICT環境の整備はあくまでも『手段』であり、『目的』ではない」ということです。一人ひとりが自らの問いをもって主体的に課題に取り組み、友達とともに、解決に向けて協働的に深めていくといったこれまで行ってきた学びのプロセスは、これからも大切にしていかなければなりません。一人一台端末はその学びを充実させるためのツールであり、可能性を広げる手段であるという捉えが重要です。

技術革新が私たちの生活をより便利なものにしていくことは事実です。しかし一方で、少し気になっていることがあります。それは、技術がどんどん進み、人工知能(AI)がますます進化していく中で、人間が自分で考えなくなってしまうのではないかと心配です。実際私も、近頃はわからないことがあるとすぐにスマートフォンの検索に頼ってしまいます。自分の考えをもち、より確かなものにするために情報端末を利用するということをしないと、いつか人間はAIに支配されてしまうかもしれません。大切なことは、私たち人間が、そういった「情報端末を効果的に使いこなす力」を身に付けるということだと考えます。今後も教育活動の中にICTを積極的に取り入れ、情報モラルに注意を払いながら、この「使いこなす力」を育てていきたいと思えます。

*「GIGAスクール構想」

一人一台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、子供たちを誰一人取り残すことなく、資質・能力が一層確実に育成できるICT環境を実現する取組(Global and Innovation Gateway for All(全ての児童・生徒のための世界につながる革新的な扉))の頭文字からなる。